

国際食農科学科

1. 教育研究上の目的

日本が誇る食と農の文化を世界に向けて積極的に発信することは、激しい国際競争の下に置かれている日本の農業・農村にとって喫緊の課題であることから、本学科は、この課題の解決に向けて、日本の多様な地域が伝統的に育んできた固有の食農文化を、食農教育を通じて継承するとともに、より付加価値の高い農産物等の食材を基にした新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信できる人材を養成する。

2. 教育目標

国際食農科学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通など食農事業を展開する実践能力を有する者
- (2) 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、地域資源の活用をコーディネートし、多様な産業や活動を支援する能力を有する者
- (3) 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信する能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

自然科学・社会科学の両分野にわたる食農科学の基礎的・基盤的知識の修得と同時に、本学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけた学生に対し、学位を授与します。

- (1) 研究室における諸活動および内外での体験的・実践的諸活動などに基づき、広い視野、異なる文化への理解や関心、他者への柔軟性、自らの意思を適切に表現できる表現力あるいは語学力を有し、地域であるいは海外で、活動しうる能力を身につけている。
- (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。
- (3) 「農業生産」、「食品科学」、「食農文化」、「食農政策」、「食農教育」などにかかわる専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

基礎的・基盤的知識の修得と食農科学にかかわる実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、ナンバリングやカリキュラムツリーを用いて学習の順序等を示すなど、各科目区分において基礎から応用への段階的な科目配当を行います。

- (1) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「スポーツ関係科目」「課題別科目」および「就職準備科目」等を配当し、学科での学修方法等を修得する科目と専門教育の動機づけとなる授業科目を配当する。併せて学修内容を将来の進路に繋げるための準備科目も配当する。
- (2) 「外国語科目」には、英語とともに異文化理解及び国際的視野を形成するための実践的な語学科目を配当する。
- (3) 「学科専門科目」には、「専門共通科目」、「専門基礎科目」、「専門応用科目」、および「総合化科目」に区分し、食農科学分野の基礎となる科目をはじめ、科学の進歩や社会の要請に応え得る授業科目を配当する。また、実学主義に基づく多くの実験・実習・演習科目と、アクティブラーニングや研究室における諸活動、学内外の農業実習・研修活動、企業・地域・社会連携先との交流活動等を行う実践的な科目も配当する。さらに「総合化科目」には、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。

5. アドミッション・ポリシー

国際食農科学科では、伝統的な食農文化の継承や開発により、地域社会や世界に貢献する人材を育成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- (1) 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通に貢献することを目指している。
- (2) 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、活用をコーディネートし、多様な産業や活動の支援に貢献することを目指している。
- (3) 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信することを目指している。